

事務事業評価シート(総括表)

事務事業	39	学校図書 of 充実					
章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち					
大項目	01	生涯学習、スポーツの推進					
施策	01	学習・教育環境の充実					
事業内容							
目的	「総合的な学習の時間」等において、多様な教育活動を展開していくことができるよう「読書センター」としての機能だけでなく「学習情報センター」としての機能も向上させるために、学校図書室の蔵書数・内容の充実を図ります。						
対象・手段	学校図書標準（学級数により規定されるもの 新宿区においては約5000から10000冊）を下回る学校の図書を計画的に充実します。						
成果（事業が意図する成果）							
「総合的な学習の時間」等での児童・生徒の調べ学習や読書活動の充実を図ることができます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
学校図書標準率達成校の割合	小中学校全校に対する達成校の割合	(平成19) 年度に (100%) の水準達成					
		( ) 年度に ( ) の水準達成					
		( ) 年度に ( ) の水準達成					
成果の達成状況							
	単位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備考	
事業成果指標	目標値1	校	43.00	43.00	41.00	41.00	17年度統廃合により2校減になっています。
	実績1	校	21.00	21.00	22.00	23.00	
	= /	%	48.84	48.84	53.66	56.10	
	目標値2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	事業の実施内容						
平成17年度	学校図書標準率未達成校 小学校 8校 中学校 1校を対象に達成率の改善を実施しました。						
平成18年度	学校図書標準率未達成校 小学校 8校 中学校 6校 を対象に達成率の改善を実施しました。						

部名称		教育委員会事務局		課名称		教育指導課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	4,314	4,423	4,548	4,616	
	人件費	千円	167	167	167	166	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	4,481	4,590	4,715	4,782	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	4,481	4,590	4,715	4,782	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	4,481	4,590	4,715	4,782	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.02	0.02	0.02	0.02	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
<b>事業に関する検討課題</b>							
<p>全体として、学校図書標準達成率の改善は進んでいます。（18年9月現在で小学校111%中学校104%）  しかし、図書の廃棄も併せてなされたことや、学級増のため、学校によっては、達成率が落ちたところもあります。引き続き計画的な購入廃棄計画を促すとともに第四次実施計画期間中の全校学校図書標準率達成が必要です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	2	全体として、学校図書標準達成率の改善は進んでいます。各学校が適正な図書の購入廃棄計画を策定し、児童・生徒への図書の供給に努める必要があります。				
	効率性	2	各学校の規模に応じて配分した図書購入費は、達成率の改善や学校のカリキュラムに沿った資料の整備のために効率的に使われています。				
	実施の成果	2	図書資料整備により調べ学習は充実します。また、多種多様なジャンルの図書を整備し、読書への興味・関心を一層高める工夫が必要です。				
	行政の関与	3	学校図書館法に基づき、一定の学習環境を整備することは、区の責務です。				
	妥当性	3	まず、図書標準が達成されていない学校に重点的・計画的に図書経費を予算措置し、法令上の基準蔵書数を満たすことは妥当な方法です。				
	施策寄与度	3	各学級から蔵書検索できるなど、今後の情報教育の一環として学校図書館の機能を高めることが学習・教育環境の充実につながります。				
総合評価	全体として、学校図書標準達成率の改善は進んでいます。また、PTA、スクールスタッフや地域のボランティアとの協働による学校図書館の環境整備なども行われつつあり、「総合的な学習の時間」などでの児童・生徒の調べ学習や読書活動の充実につながっています。						B 過年度評価 17年度 B 16年度 B 15年度 14年度
	改革方針	引き続き各学校が適正な図書の廃棄・購入計画を策定していくことが必要です。19年度に事業予算を拡充し、全校が学校図書館図書標準の蔵書数を達成できるよう計画的に図書の購入を行います。					